

地方で、子育てを「まるごと」支援していくために



2018年3月19日

NPO法人わははネット 中橋恵美子

NPO法人わははネットについて

- ◆1998年 育児サークルわはは（輪母）ネット発足
- 2002年 NPO法人化（香川県認証30番目）

【香川から子育てをもっと楽しく！】を合言葉に活動している。

子育て
コーディネーター
事業
(利用者支援)

情報発信

- ⇒子育て情報誌の発行
- ⇒いち早く携帯電話へ情報発信
- ⇒自治体の子育て情報発信



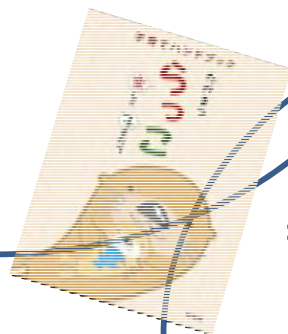
居場所づくり

- ⇒親子の広場(地域子育て支援拠点)の運営(県内4カ所)



人材育成 企業連携

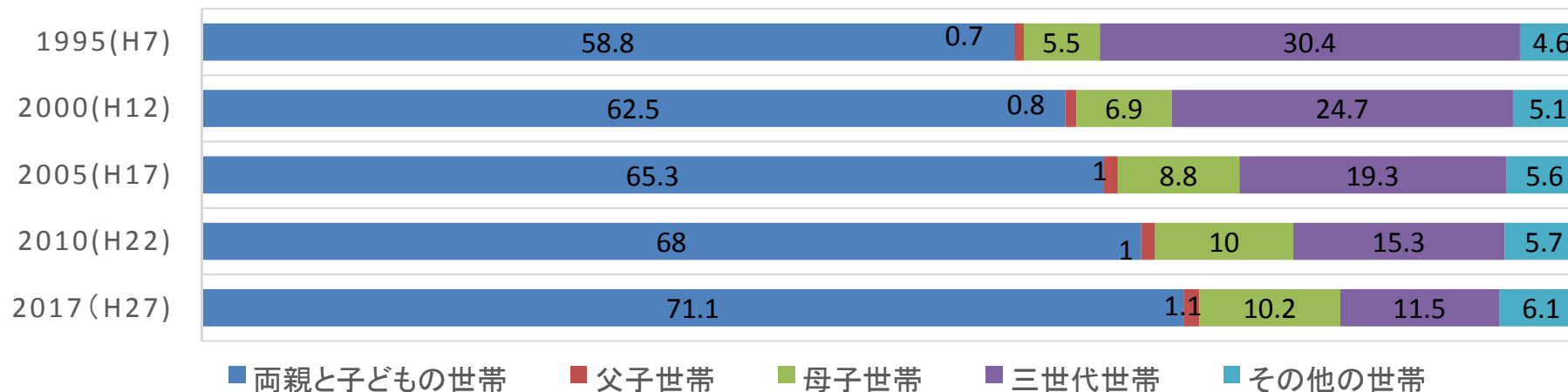
- ⇒人材育成
(子育て支援員講座等各種)
- ⇒働き方改善・WLB支援
- ⇒子育てタクシー
- ⇒ファミサポ支援
- ⇒中高生の
ふれあい体験



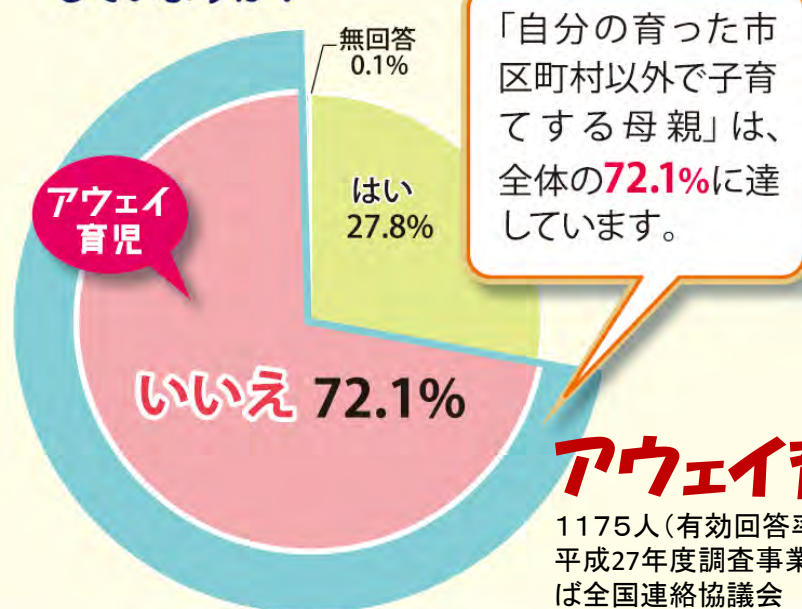
地方での子育て世帯の家族形態・状況について

香川県の子育て世帯約8割は核家族

18歳未満の子どもがいる世帯の家族構成の推移(香川県)

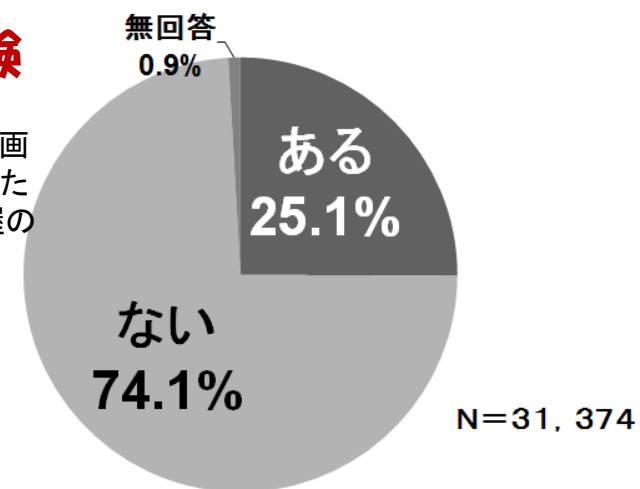


Q. あなたが育った市区町村で、現在子育てをしていますか？



赤ちゃんのお世話体験

「横浜市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ把握のための調査横浜市の利用ニーズ把握のための調査」から、2013年12月



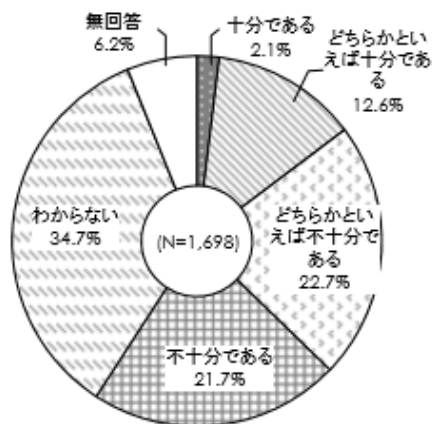
- ・未就学児 31,374 世帯に対する調査
- ・はじめてのお子さんが生まれる前に、赤ちゃんのお世話をしたことがありますか。(1つに○)

子育てを支え合う体制について

地方都市 香川県でも子育てについて困った時に相談し合える体制について**十分・どちらかと言えば十分と答えた人はたった15%にも満たない。**
香川県健やか子ども支援計画(平成27年～31年度までの計画)よりデータ抜粋

③ 子育てについて困ったときに相談したり支えあう体制について

子育てについて困ったときに相談したり支えあう体制について、「不十分である」と「どちらかといえば不十分である」を合わせた「不十分」の割合が44.4%となっており、「十分である」と「どちらかといえば十分である」を合わせた「十分」(14.7%)を29.7ポイント上回っています。



「県政世論調査」(平成24年度)

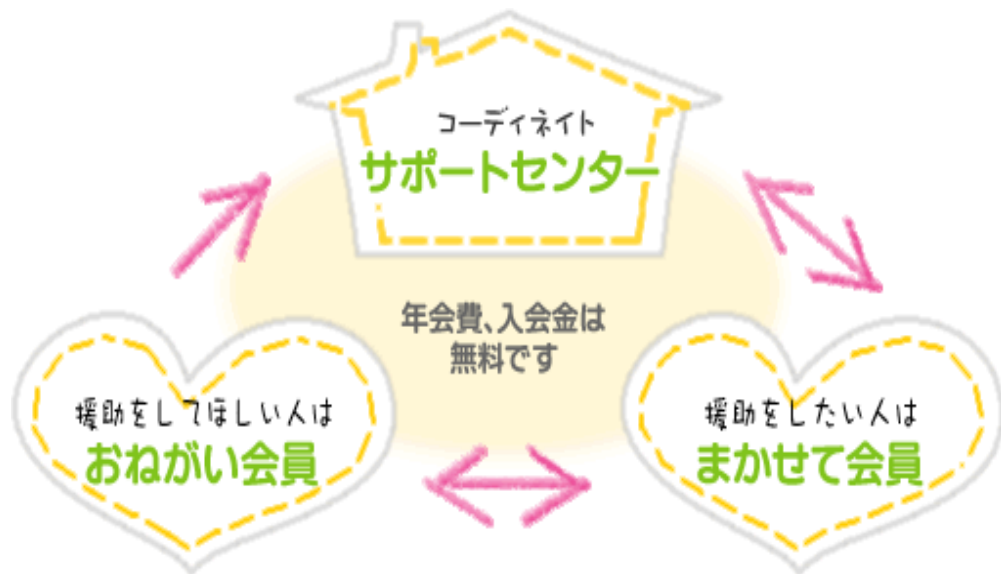
ここまでのデータから見えてくる子育て家庭の現実

- ★核家族が8割⇒教えてくれる人がいない・ちょっと見てくれる人がいない
- ★生まれ育った土地で無いところでの子育てが7割以上
- ★子どもを預ける人がいない⇒子どもと離れる時間が全くない。
- ★子育ては未経験である。
- ★母親に偏る育児負担
- ★支えあう場の不足

24時間365日の育児を未経験のまま、
ひとりで背負わないといけないのが現状である。

子育て支援メニューの隙間・行政の縦割りによる支援の限界：子育てタクシーの事例から

既存の子育て支援のメニュー 【ファミリー・サポート・センター】の仕組み



本来は会員間での預かり支援であり
会員宅等での『子どもの預かり』
→しかし地方都市での利用状況は8割以上が
“移動を伴う預かり”もしくは“移動のみ”の
利用である。

「子育てタクシー」を発案

※現在37都道府県2,000名近いドライバーを
育成



ひとり親家庭・困窮家庭等の
『子育ての移動ニーズ』を考えると
今後は例えば介護施設等と連携した
移動支援の在り方などを
検討しないといけない。

あるいは放課後児童クラブ送迎と
介護施設の送迎との連携は可能か？

地域の事情

人材不足・資金不足・新しいことへのチャレンジの意欲不足(成功体験が少ない)

地域の事情はそこに住んでいる人にしか分からないことも多い

次代の親になる世代が故郷
に希望を持ち子どもを産み
育てることに関心を持つ

高齢者・障が
い者も暮らし
やすいまち

子育て家庭が
暮らしやすい
まち

子育て:支える人の課題・高齢者支援へのボリュームの大きさ(医療・介護)により
子育てに手が回らない現状

ひとり親支援 困窮家庭支援 * 待機児童の課題 * 放課後の子どもの居場所
* 思春期の子どもへの支援 * 産前産後の支援 様々なアプローチが考えられる

これまで【行政の縦割り】や【前例がない】などにより実現できなかったことを
実現できる可能性が出てくる →地方に成功体験ができる

“そこに暮らす人”目線で、何が必要かを考える習慣ができることで
より暮らしやすく期待の持てる地域づくりができるのではないか。